

## 著者紹介（\*は編者，執筆順。①所属，②経歴，③業績）

\*前嶋和弘（まえしま かずひろ）

【第1章・第4章・第6章】

①上智大学総合グローバル学部教授

②メリーランド大学政治学大学院博士課程修了，Ph.D.（Government and Politics）

③『アメリカ政治』（共著）有斐閣，2023年。

『キャンセルカルチャー——アメリカ貶めあう社会』小学館，2022年。

『アメリカ政治とメディア——「政治のインフラ」から「政治の主役」に変貌するメディア』北樹出版，2011年。

志田淳二郎（しだ じゅんじろう）

【第2章】

①名城大学国際学部国際文化学科上級准教授

②中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了，博士（政治学）

③『ハイブリッド戦争——揺れる国際秩序』並木書房，2024年。

『ハイブリッド戦争の時代——狙われる民主主義』並木書房，2021年。

『米国の冷戦終結外交——ジョージ・H・W・ブッシュ政権とドイツ統一』有信堂，2020年（第26回アメリカ学会清水博賞受賞）。

西住祐亮（にしずみ ゆうすけ）

【第3章・コラム1】

①中央大学法学部兼任講師

②中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了，博士（政治学）

③『米国の対ロシア政策と共和党の変容——第二次トランプ政権の展望を中心に』『ロシアNIS調査月報』第70巻第1号，2025年。

『アメリカ外交と性的少数者（LGBT）の権利——内政と外交の連関に注目して』『清泉女子大学人文科学研究所紀要』第43号，2022年。

『オバマ政権下における紛争介入政策の検証——介入と不介入の狭間で』『国際安全保障』第45巻第1号，2017年。

松本俊太（まつもと しゅんた）

【第5章・コラム2】

①名城大学法学部教授

②フロリダ州立大学大学院博士課程修了，Ph.D.（Political Science）

③“The Role of Congress in the Current Polarized Age: Unified Decision-Maker or Partisan Arena?” *The Japanese Journal of American Studies* No. 34, 2023.

『アメリカ大統領は分極化した議会では何ができるか』ミネルヴァ書房，2017年。

『アメリカ50州における選挙管理組織——何がトップの選出方法を説明するのか』『年報政治学』2018-II，2018年。

## 榊田久代（くしだ ひさよ）

【第7章】

- ①福岡大学法学部教授
- ②北海道大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学，博士（法学）
- ③「2024年米大統領選挙年におけるアラスカ州住民投票」『福岡大学法学論叢』第70巻1号，2025年。  
『初期アメリカの連邦構造——内陸開発政策と州主権』北海道大学出版会，2009年。  
『アメリカン・システムの時代における連邦制の実態』『年報政治学』2005-II，2005年。

## 菅原和行（すがわら かずゆき）

【第8章】

- ①福岡大学法学部教授
- ②慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学，博士（法学）
- ③「アメリカ連邦公務員制度の断片化とその背景」『福岡大学法学論叢』第69巻第2号，2024年。  
『官僚制——行政統制としての官僚制改革』『アメリカ政治の地殻変動——分極化の行方』東京大学出版会，2021年。  
『アメリカ都市政治と官僚制——公務員制度改革の政治過程』慶應義塾大学出版会，2010年。

## 宮田智之（みやた ともゆき）

【第9章・コラム3】

- ①帝京大学法学部教授
- ②慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学，博士（法学）
- ③「国際主義の動揺とシンクタンクの変容」『トランプのアメリカ——内政と外交，そして世界』東京大学出版会，2025年。  
『シンクタンクが分断にはたしている役割』『分断されるアメリカ』宝島社，2024年。  
『アメリカ政治とシンクタンク——政治運動としての政策研究機関』東京大学出版会，2017年。

## 藤本龍児（ふじもと りゅうじ）

【第10章】

- ①帝京大学文学部社会学科教授
- ②京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了，博士（人間・環境学）
- ③「トランプ2・0における宗教と文化戦争」『トランプのアメリカ——内政と外交，そして世界』東京大学出版会，2025年。  
『ポスト・アメリカニズム』の世紀——転換期のキリスト教文明』筑摩書房，2021年。  
『アメリカの公共宗教——多元社会における精神性』NTT出版，2009年。

### 三牧聖子（みまき せいこ）

【第11章】

- ①同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，博士課程修了（学術）
- ③“Civil Movements and Their Impact on American Politics,” In *“Fragile Stability” as a Political Background of October 7: Current and Foreseeable Issues in the Israeli-Palestinian Conflict*, Springer, 2025.  
『Z世代のアメリカ』NHK 出版，2023年。  
『戦争違法化運動の時代——「危機の20年」のアメリカ国際関係思想』名古屋大学出版会，2014年（第20回アメリカ学会清水博賞受賞）。

### 小尾美千代（おび みちよ）

【第12章・コラム4】

- ①南山大学総合政策学部教授
- ②筑波大学大学院博士課程国際政治経済学研究科単位取得退学，博士（国際政治経済学）
- ③「分極化するアメリカにおける脱炭素化とグローバル気候ガバナンス」『グローバル・ガバナンス』第10号，2024年。  
*Environmental Risk Mitigation: Coaxing a Market in the Battery and Energy Supply and Storage Industry*（共著），Palgrave Macmillan, 2016.  
『日米自動車摩擦の国際政治経済学——貿易政策アイデアと経済のグローバル化』国際書院，2009年。

### 小森真樹（こもり まさき）

【第13章】

- ①武蔵大学人文学部教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，博士課程修了（学術）
- ③『歴史修正ミュージアム』太田出版，2025年。  
『楽しい政治——「つくられた歴史」と「つくる現場」から現代を知る』講談社，2024年。  
『女性史美術館へようこそ——展示という語りと語りなおし』『人文学のレッスン——文学・芸術・歴史』水声社，2022年。

### 佐藤真千子（さとう まちこ）

【第14章】

- ①静岡県立大学国際関係学部准教授
- ②聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科アメリカ・ヨーロッパ文化学専攻博士後期課程修了，博士（学術）
- ③「宗教とアメリカ外交政策——研究動向と政策形成の文脈から」『国際関係・比較文化研究』第23巻第2号，2025年。  
“Branding in the Pandemic: The ‘Cool Japan’ Strategy,” In *World Politics in the Age of Uncertainty: The Covid-19 Pandemic*, Volume 2. Palgrave Macmillan; 1st ed. 2023.  
「トランプ政権下で展開される対中人権外交——国際的宗教自由の追求」『東亜』第631号，2020年。

手塚沙織（てづか さおり）

【第15章】

- ①南山大学外国語学部准教授
- ②同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士課程修了，博士（グローバル社会研究）
- ③「米中間の人の流れの再構築——米中の求心力とディープシークの衝撃」『CISTEC Journal』第218号，2025年。  
「複数国籍者からの国籍剥奪——国家安全保障を軸とした議論の行方」『複数国籍——日本の社会・制度的課題と世界の動向』明石書店，2022年。  
「米印間の高度人材の移動をめぐる齟齬とせめぎあい——WTO への提訴」『移住労働とディアスポラ政策——国境を越える人の移動をめぐる送出国のパースペクティブ』筑波大学出版会，2022年。

齊藤孝祐（さいとう こうすけ）

【第16章】

- ①上智大学総合グローバル学部教授
- ②筑波大学人文社会科学部国際政治経済学専攻修了，博士（国際政治経済学）
- ③“Japan’s National Security and Science-Technology Management,” In *Handbook on Japanese Security*, Amsterdam University Press, 2023.  
「イノベーション・エコシステムの拡大と投資規制——『安全保障』をめぐる価値対立とその変容」『国際安全保障』第49巻第1号，2021年（2021年度国際安全保障学会最優秀新人論文賞受賞）。  
『軍備の政治学——制約のダイナミクスと米国の政策選択』白桃書房，2017年。